

概要版

～ 小学校のより良い教育環境の整備と教育内容の充実に向けて ～

神川町教育委員会

「神川町立小学校適正規模・適正配置に係る基本方針」(案)

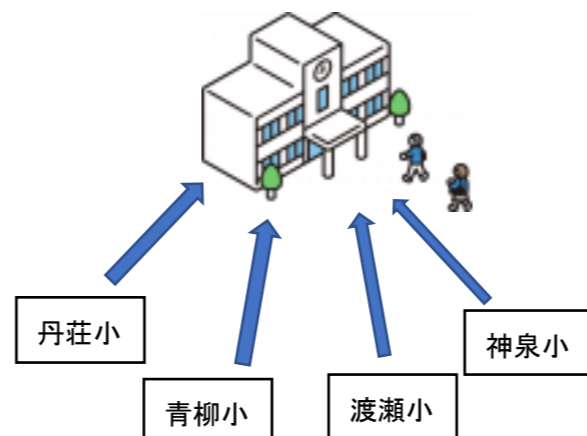
全国的に人口減少と少子化が進む中、神川町においても、学校規模の適正化や小規模化に伴う諸問題への対応を検討することが喫緊の課題となっています。

町内の4小学校の児童数は、平成18年から令和2年までで、949人から614人へと減少しています。また、町全体の子どもの出生数も、令和3年度は49人でした。(6年後の小学校1年生は、2学級で対応できる人数です。)このような状況の中、令和2年6月に「神川町立小学校適正規模等検討委員会」を設置し、10年後・20年後を見据えた小学校の適正規模等について諮問し、令和3年3月に答申が出されました。その後、答申を踏まえ、教育委員会と町部局で協議を進め、今後の小学校の在り方に関する基本方針(案)を策定しました。

今後、この方針を踏まえ、地域住民の方々への丁寧な説明を行いながら、小学校の適正規模・適正配置を円滑に進めたいと考えています。

10年後を目途に小学校4校を1校にします

- 1校にすることで学級の児童数が増えるため、学習指導要領が求める協働学習(集団の中で多様な考え方に触れながら自分の考えを高めていく学習)を通して、より質の高い教育を受けることができます。
- クラス替えにより、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られます。
- PTA活動等の役割分担では、保護者の負担軽減が期待できます。
- 集団活動等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育むことができます。



スクールバス等の適切な交通手段を確保したうえで、 神川中学校の場所に小学校4校の統合を目指します

- 通学距離が長く徒歩での通学が困難な児童については、スクールバス等を運行することで、通学時間の短縮や交通安全上の不安の解消も期待できます。
- 小中が1か所にまとまることで、教員同士の連絡が密になり、授業の相互乗り入れや、いわゆる「中一ギャップ」の解消も期待できます。

保護者や地域住民等の意向を十分に踏まえて

早期(2～5年以内)に複式学級解消を目指します

- ≪複式学級とは≫1学級の児童数が少ないために、複数の学年を1学級にまとめて学ぶ学級形態です。
- 現在、渡瀬小学校と神泉小学校が県から認定を受けています。
- できるだけ早期に複式学級を解消することで、人間関係の固定化を解消したり、集団活動の中で社会性を育む機会を増やします。

施設への集中投資を実現するとともに、

小中一貫校としてより充実した教育の実現を目指します

- 小学校4校は、建築後40年以上が経過し、今後も多額の維持費が見込まれます。統合することにより、一校に集中的に予算をかけることができ、より質の高い教育と充実した施設設備が可能となります。
- 小学校と中学校の連携をより一層推進し、例えば「小中一貫校」などで、学力の向上は言うまでもなく、集団活動の充実、異年齢交流の促進など、切れ目のない、質の高い教育を行うことが期待できます。